



「ダメダメ勉強習慣」ワースト3

去る3月3日、系列校「中学受験専門塾E:REX」保護者の方々に向けて「中学進学説明会」を開催しました。私立中進学後は、受験勉強から解放されるため、学習習慣を崩し、中学入学以降に成績を落としがち。今回はその説明会でもお話しした、私立生だけでなく国公立生・高校生、そして小学生にも通じる「ダメダメ勉強習慣」ワースト3をご紹介します。

◆【ワースト3位】一度見ただけで覚えたつもりになる・教科書などの解説をよく読まない

間違えた問題の答えを赤ペンで一度書いただけで覚えた気になり、後日似たような問題を出してもさっぱり対応できない、というケースがよくあります。かといって、やみくもに「何回も同じ言葉を書く」のも非効率。最も有効な手段は「教科書や参考書などの解説をしっかりと読み込んで理解」した上で、「自分の頭の中で整理して(時には声に出して繰り返したり自分で説明できるように工夫しながらまとめて)書き出す」ということ。前者の「インプット」、後者の「アウトプット」の両輪をバランスよくとることが必要です。しかし、国語力の低下が叫ばれている昨今、「教科書や参考書などの解説を読み込む」インプットを怠ったり、「自分の言葉で表す」アウトプットを怠ったりする小中高生が非常に多いのが現状です。わかったつもりで気持ち良くなるだけの表面的な作業から脱却しましょう。

◆【ワースト2位】定期テスト週間だけしか勉強しない・ふだんから勉強しない

「テスト週間は塾に来て頑張って勉強しているのに思ったほど成績が上がらない」人の多くは、ほぼ間違いなくこのケースに該当します。「勉強“習慣”」という名の通り、普段から勉強を習慣づけないと定着率は上がりません。LABO7で常々伝えていることは、「その日の復習はその日のうちに その週の復習はその週のうちに」。定期テストの範囲自体は広いですが、1日・1週間単位で見れば分量はさほど多くありません。テスト週間までため込まず、平常時から日々の復習の習慣を5教科まんべんなくコツコツと進めましょう。「テストが終わればすべてリセット」の繰り返しでは、実力はつきません。また、「家ではやっているのに成績が取れない」場合は、家庭学習での集中力や時間の使い方に問題あり。自習室を活用しましょう。

◆【ワースト1位】学校の授業を聞かない・学校の先生をナメる・学校の授業中に寝る

本来、学校の授業をしっかりと聞いて理解し、自分で普段から繰り返し復習する習慣がついている人ならば、塾に通う必要はありません。しかし、私立中生の実に6~7割ほどが何らかの塾に通っているといわれているのが現状です。その最大の理由は「学校の授業をきちんと聞いていないから」。事実、定期テストの問題は学校の授業内容をベースに出題されるものばかりなので、学校の授業をまともに聞いてなければ、どれだけ塾に通っていても定期テストで点数が取れないのは当たり前です。「学校の授業はしっかりと聞いているけど、不得意なところや自分で解ききれないところがあるから塾で教えてもらう」や「授業も復習も自分なりにやれているつもりだけれど、自分では気づかない欠点や改善策を塾で指摘してもらいたい」というのが有効な塾の活用法。一方で「学校の授業を聞かなくても塾でイチから教えてもらえばいい」というのでは、結局内容理解だけに時間を取られて十分な演習ができず、塾でわかったつもりになって結局自分では解けない、という状況に陥るだけで非効率です。系列のシーガルスクールやE:REXでも幼児・低学年に最初に伝えることは、「先生の目を見て話を聞く」こと。これを学校で実践することこそ、実は学力向上の近道なのです。

いかがでしたか。4月から学校でも新学期が始まります。進級・進学のタイミングだからこそ、今一度、自分の勉強習慣を見直しましょう。その上で、LABO7の学習環境を最大限に活用しながら、「良い勉強習慣の日常化」を早いうちに構築できるように努めましょう。